

みんなの第三の居場所「サードビレッジ」事業構想案

～オンライン × オフラインを往来する、

心と身体のハイブリッド型フリースクール～

みんなの居場所ユニコーン 代表 辻 陽介

1. ビジョン: 「学校か家か」の二択から、自ら選べる「第3の村」へ

不登校児童生徒数が過去最多の 34 万 6,482 人（文部科学省：令和 5 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果）を記録する中、既存の支援施設にさえ通えない「孤立した子ども」の受け皿が急務です。

サードビレッジは、ICT（オンライン）と運動・自然（オフライン）を自由に行き来できる「ハイブリッドな居場所」を提供し、子どもの歩幅に合わせた社会復帰を支援します。

2. 提案者の強みと背景(なぜ私がやるのか)

現場の「デジタル」と「身体」の両面を熟知していることが、本事業の最大の独自性です。

- **ICT 支援員の知見（デジタル）**： 現役の ICT 支援員として小学校の教育現場に立ち、GIGA スクール構想の光と影を見てきました。デバイスを「孤立の道具」ではなく「創造の武器」に変える術を伝えます。
 - **現役テコンドー選手・道場運営（身体）**： 指導者として多くの子どもと接する中で、「身体を動かすことは、心を整えること」だと確信しています。運動を通じて、言葉にできない不安を解消し、自己肯定感を再構築します。
-

3. サードビレッジ 3つの柱と「心身回復」のメカニズム

厚生労働省の「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」でも、身体活動がメンタルヘルスの改善に有効であると示されています。

軸（柱）	具体的活動	育まれる力・効果
① 運動（武道・遊び）	武道をベースとしたトレーニング、運動遊び	自己肯定感の向上：身体感覚を取り戻すことで、体力向上だけでなく、心の安定（レジリエンス）を育みます。
② 自然（共生・回復）	協生農法（生態系を活かした農法）、秘密基地作りなどの外遊び	安心感の醸成：自然のサイクルに触れ、自分の居場所が世界にあることを実感します。
③ ICT（創造・未来）	Minecraft での建築、プログラミング、動画編集	社会との接続：「好き」を形にし、発信することで、将来のキャリアへの希望を作ります。

4. プロジェクト事例：「デジタルからリアルへ」の循環

「外に出るのが怖い」子ども、まずはオンラインからスモールステップで参加できる仕組みです。

1. 設計（仮想）：Minecraft 内で、自分たちの「理想の村」を設計・試作する。
 2. 実行（現実）：実際に外へ出て、DIY や畑仕事でそのアイデアを形にする。
 3. 発信（社会）：活動の様子を動画に編集し、地域やネットへ発信する（クリエイター体験）。
- 特徴：「今日はオンラインだけ」「今日は外で運動する」など、その日の体調に合わせて参加形態を自分で選択できることが、心理的安全性に繋がります。
-

5. 目指す地域社会の姿

サードビレッジは、子どもの支援に留まらず、保護者のケアや、地域住民が自分の特技を活かして関われる「多世代共生型の村」を目指します。

微力ながら地域全体で子どもを育む「セーフティネット」の一部として機能させていきたいと考えています。

6. 企画者プロフィール

辻 陽介

愛知県名古屋市生まれ、大府市在住。中京大学体育学部卒業。

少年期にいじめや暴力を受けたことがきっかけで、武道に関心を持ち日本テコンドー協会の道場へ入門。

大学卒業後、商社に勤務し海外出張の多い部署ながらテコンドー選手として数々の大会にて入賞。武者修行として空手や総合格闘技の大会にも出場。

学生時代より参加していた、発達障害がある子どもや不登校の子どもたちのためのNPO法人「アサヒキャンプ名古屋」にて、それぞれのペースに合わせて見守る姿勢を学び、共に成長し合える喜びを知る。

競技歴 20 年、指導歴 13 年以上。

全国大会入賞経験や優勝者、入賞者の輩出実績あり。

2023 年に不登校の子向け運動と遊びの教室『ユニコーン』開設。

テコンドー三段

愛知県テコンドー連盟 会長

不登校の子向け運動クラス『ユニコーン』代表

ICT 支援員として小学校や高等学校にて授業のサポートや校務効率化を進める。